

2018-19
12-1 月

はしかけニューズレター

2018 年度 第 5 号 通巻 144 号

2018 年(平成 30 年)12 月 1 日 発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 下松・八尋・大塚・大槻・楊)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

(注意) 平成 30 年 11 月より HP アドレスが変更になっています。

～ 目 次 ～

1. びわ博フェス 2018 の開催について

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
(7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ! ディスカバりはしかけ
(11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生き物調査グループ
(15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
(18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人 (23) 琵琶湖梁山泊
(24) サロン de 湖流

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 ... 387人
グループ数 24 グループ
(2018年12月1日現在)

1. びわ博フェス 2018 の開催について

去る 11 月 17 日、18 日の土日に「びわ博フェス 2018」を開催いたしました。はしかけグループの皆様には、ポスター作製やワークショップ開催にご協力いただき、誠にありがとうございました。「びわ博フェス」は、はしかけグループの活動をグループ同士、また館外の方々に広く知っていただき交流することを主な目的として、ポスター展示やワークショップなどを行う恒例の行事で、今年で 8 回目を数えます。おかげさまで、どのワークショップも概ね満員御礼、全体としても特に日曜日は全体で約 5,000 人弱の来館者と、この時期としては非常に多く方にご来館いただきました。

目新しいワークショップとしては、リニューアルオープンしたおとなのディスカバリーのオープンラボでの実演会や、樹冠トレイルでのガイドツアーなどを開催していただきました。写真左は虫架けグループによる実演の様子ですが、午前中のワークショップで土壌中から採取した虫を顕微鏡で観察し、その解説を行っています。ご覧のように多くの方が足を止めて画面に見入り、解説に耳を傾けておられました。はしかけの皆様には、新しい施設を存分にご活用いただき、活動の幅を広げていただければと思います。

(下松 孝秀)



オープンラボでの実演の様子 (虫架け)



樹冠トレイルでのガイドツアー (森人)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 43 名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松田征也

【活動報告】

■ 10月21日(日) 第138回定例調査場所 場所: 彦根市南部の小河川 参加者 18 名

彦根市南部の小河川でうおの会第138回定例調査を行いました。晴天で寒暖差が激しい、秋らしい日となり、初参加の河井さん親子を含む18名で調査をしました。

4班に分かれ、おおむね宇曾川から愛知川の間を調査しました。確認された魚種は、ヨシノボリ類、ヌマチチブ、オオクチバス、ドジョウ、ウキゴリ、ナマズ、カワムツ、ヌマムツ、ドンコ、フナ類、ムギツク、オイカワ、カマツカなどでした。オオカナダモ、エビモ、マツモなど様々な種類の水草類が見られ、スジエビ、ヌマエビ類、テナガエビ、アメリカザリガニといった甲殻類は各班とも大量に見られました。

元々は琵琶湖であった場所ということもあり、泥質の場所が多く各班とも調査に苦戦。よい場所を求めて担当範囲を「越境」してしまう班もありました。(報告 中島 財)

■ 11月17日(日) びわ博フェス2018「お魚キーホルダーを作ろう」出展 場所: 琵琶湖博物館 実習室2

うおの会スタッフ参加者: 14 名 来客数: 約 100 名

11月17日土曜日はびわ博フェス2018の日でした。うおの会は例年通り「お魚キーホルダーを作ろう」と題し、プラ板づくりでの参加となりました…ここまでは本当に例年通りだったのですが、なんと今年は最終段階、トースターで焼く作業を毎年お願いしている熟練メンバーがほぼ欠席!!

大ピンチ…と思ったのですが、なんとか準備の間に練習を重ね、本番に間に合わせる事が出来ました。成功率は「ほぼ」100%。毎年手際が良くなってるなあと思います。

プラ板づくりは満員御礼で、整理券もすぐに配布終了となりました。びわ博フェスのチラシに「整理券配布」との記載を忘れてしまい、来場したご家族に泣く泣くあきらめてもらうほどでした。新聞社さんの取材や、親子連れのご家族以外に、大人だけの参加者さんなど、いろいろな世代の方にプラ板づくりを楽しんでもらえました。片付けも手際よく終わり、来年もまた楽しくできるといいなあと思います。(報告 竹元 研矢)

※追記: 読売新聞の折り込み紙「しが県民情報」の11月30日版に掲載予定とのことです。(中尾博行)

■ 11月18日(日) 第139回定例調査場所 場所: 中の井川 参加者 11 名

びわ博フェス2018の翌日、11月18日は中の井川での定例調査でした。連日の活動のためか、参加者数は10名前後と少なめでしたが、調査地が市街地付近であるため、少数での活動がむしろ適していました。2班に分かれての調査となり、結果はオイカワ、ヌマムツ、ニゴイ、タモロコ、ヨシノボリ、ウキゴリ、ナマズなど計17種の魚が確認されました。

街中での調査のため、駐車スペースや調査地点の確保など不安の多い場所でしたが、意外にも2班とも多くの地点で調査ができ、たくさんの魚に出会えました。やたらとたくさんのナマズに出会ったり、1匹のナマズを大人と子供が全力で追いかけたり…肌寒く、川の水も冷たい中での調査でしたが、街中で生きる魚たちと出会う事ができた調査となりました。

(報告 竹元 研矢)



【活動予定】

■ 年間活動予定はうおの会のウェブサイトに掲載されています。ご覧ください。

【活動報告】

■ 9月26日(水) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 2名

まちづくり活動に取り組んでいる今郷好日会が実施した滋賀県職員向けの「近江地元学研修」の中で、水口町巖峨の千光寺を案内した。平安時代に制作された国指定重要文化財十一面千手観音像を拝観、千光寺は近江西国、甲賀西国および甲賀准四国 52 番札所である。研修生に近江の巡礼について解説し興味を持っていただいた。札所の石碑は確認できていないが弘法大師像と厨子の調査ができた。(参加者数: 研修生 9 名、その他 10 名)



天台宗楊柳山千光寺本堂と甲賀准四国設置時(明治45年)に安置された弘法大師像

■ 10月16日(火) 場所: 甲賀市甲南町 参加者: 2名

役行者ゆかりの大和葛城山から移り住んだとされる集落、甲南町葛木の安楽寺と寺庄の慈音院を再調査。ともに神仏習合の名残のある天台宗の寺院である。特に安楽寺では甲賀市内でも公表されていない貴重な大日如来像を発見した。慈音院に併設の日吉神社には飯道神社も祀られていて甲賀の信仰の深さを感じられる。ともに甲賀准四国の札所である。



安楽寺の仁王門と地藏さんと一緒に前掛けの掛けられていた大日如来像

■ 10月20日(土) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 2名

いわがみの歴史探訪(岩上自治振興会のミニミニ講座、聴講者 5 名)で甲賀准四国をテーマに歴史講座を実施。巡礼の歴史勉強会で調査した内容を発表。岩上地域内の札所を巡って石碑や弘法大師像を見学。地元で初めての講座が実現した。いわがみの歴史探訪(岩上自治振興会の歴史講座、聴講者 5 名)で千光寺と八坂神社の歴史講座を実施。千光寺はもと川枯寺と呼ばれ八坂神社も川枯社や牛頭天王社と称する神仏習合の寺院である。地元の歴史ウォーキングも同時開催し多くの方に巡礼について説明させていただく良い機会になった。(参加者数: 歴史ウォーキング 35 名)



千光寺境内にて縁起を解説、国指定重要文化財の十一面千手観音像を拝観

■ 11月11日（日）場所：甲賀市水口町 参加者：3名

岩上地区文化祭で巡礼の歴史勉強会のパネル展示を実施。

「近江 巡礼の歴史勉強会」として地元の甲賀市岩上地区で展示するのは初めての試みであったが多くの方々に説明させていただき関心を持っていただいた。（参加者数：岩上地区文化祭 400 名）



岩上体育館内の展示スペースにはしかけグループ「近江 巡礼の歴史勉強会」として展示

■ 11月17日（土）場所：甲賀市水口町 参加者：2名

いわがみの歴史探訪（岩上自治振興会の歴史講座、聴講者 5 名）飯道寺で歴史講座を実施。飯道山と修験道について郷土史家に解説していただき江戸時代の飯道寺発行の補任状や重要文化財の十一面観音なども実際に見て頂きながら甲賀の歴史を実感した。



飯道寺に安置されている弘法大師像



重要文化財の安置されている宝物殿内部

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した調査活動として、一ヵ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「甲賀准四国八十八ヵ所」関係者や巡礼に関する専門家との第二回目勉強会を開催に向けた準備を進める。

（福野憲二）

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数（のべ）6名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 篠原徹 榎永一宏

【活動報告】

■ 9月23日（日）場所：平湖（草津市） 参加者：2名

それぞれ、お気に入りの場所でスケッチを行う。

■ 10月28日（日）場所：琵琶湖博物館 参加者：4名

琵琶博フェスのためのポスター作り。

※2018年11月25日（日）の活動につきましては、次回ご報告の予定です。

【活動予定】

■ 12月23日（日）

琵琶湖博物館にて。

※集合場所と時間については後日連絡させていただきます。

※初めて参加される方は080-5709-8634（金山）までご連絡ください。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数（のべ）10名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】

織姫の会

■ 10月10日（水）参加者：3名

びわ博フェスでヒンメリ風オーナメントをつくることにしたので、試作品を作成しました。とりあえずはストローで練習して、本番ではヨシを使うことにしました。

■ 10月27日（土）参加者：2名

びわ博フェスの準備。作り方の順番や材料のヨシを準備しました。今回は基本の正八面体を作ることにしました。

■ 11月17日（土）びわ博フェス 参加者：5名、体験者：23名

「自然素材でヒンメリ風オーナメントをつくろう」というワークショップをしました。1時の申し込み開始には一気に10人ほど来られましたが、そのあと少しずつ参加者が来られたので、じっくり対応することができました。

【活動予定】

■ 織姫の会

12月8日（土）びわたん、23日（日）大掃除
（日程が変更になっているので、要注意）



11月17日びわ博フェス

（辻川智代）



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 28名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口保文

【活動報告】

■ 10月13日(土) 参加者: 7名 10月14日(日) 参加者: 4名

11月のびわ博フェスにワークショップで「大津市や周辺で不思議に思った岩石や地層について」というタイトルで参加することにした。ワークショップへの参加は二度目で前回は3年前である。その時は「岩石割り」を目玉にして子供から大人まで多数の人に楽しんでいただいた。今回は新しくできた「おとなのディスカバリー」を使用し、各人が興味を持った現物の岩石や試作した薄片等を示して、それを説明することにした。

10月、11月ともその資料の作成に注力しました。この間、特別研究員の中野さん、総括学芸員の里口さんには岩石のカットから研磨、試作薄片の完成度のチェック、岩石の同定まで大変お世話になりました。薄片の試作は朝10時から14:00頃まで行った。

■ 11月7日(水) 参加者: 6名

研磨と石の同定。おとなのディスカバリーで説明の予行も実施。

薄片の試作には長い時間と絶え間ない注意が必要です。注意したつもりで研磨しても薄片が片べりしたり、すべて削り取られてプレパラートのみになったりしました。そのため、最初の岩石カットから再トライすることもありました。試作過程を撮影しておくで岩の厚さ方向の変化も分かったり、また、試作中の完成寸前の薄片を偏光顕微鏡で観察すると極めて綺麗でそれも感激しました。また当初に予測した石と異なることもあった。皆さん、それなりに楽しんだり、不思議がったりの連続でした。

■ 11月17日(土) 13:00-15:00 びわ博フェス 参加者: 11名

「大津市や周辺で不思議に思った岩石や地層について」というテーマで、中1の若手から70才代のシニアが5テーマについて6人で報告しました。担当の里口さん、顧問の中野さん、メンバーも参加頂き、賑やかに報告しました。報告中に質問をしてもよい方式にしたので、多くの質問が続発し、15:00にやっと全報告を終了できた。当初は報告時間が余ることを皆さん心配していましたが、中1の若手もお母さまや皆さんの心配をよそに、報告の基本的パターンも体得して報告してくれました。報告の原稿を書いて報告してくれた人、堂々と明るく報告してくれた人等、色々でした。若い人の自信に繋がればと思います。またシニアの老化防止にも役立てばと思いました。報告に使用した薄片等の資料は、次回のニュースレターで報告します。

11月11日に予定していた「鞍馬」の調査は、現地の安全が確認できなかったので中止。

【活動予定】

■ 12月9日(日) 古琵琶湖層の野外調査。野洲川、水口等を予定。雨天中止。



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

【活動報告】

■ 9月29日(土)

博物館周辺での撮影会を予定しておりましたが、雨で中止となりました。

■ 10月27日(土) 9:30~12:00 びわ博フェスの準備 場所: 博物館実習室1 参加者: 8名

びわ博フェス2018で行なう写真展のための写真選定作業を行いました。みなさんの力作揃いで、いろいろな写真を楽しむことができ、複数ある候補の中から、実際に展示に使う写真を決めていきました。

■ 11月17日(土)・18日(日) びわ博フェスにて写真展、記録写真撮影 場所: 博物館アトリウム 参加者: 16名

びわ博フェス2018で「ふと気付く、滋賀の自然」をテーマとした写真展を開催しました。メンバー13名のこれまで撮影してきた写真を展示し、多くの方々にご覧いただくことができました。また、びわ博フェスの記録として各ワークショップや館内の様子などを撮影しました。

【活動予定】

■ 12月15日(日) 博物館入口9:30 集合

博物館周辺の博物館周辺の冬の風景や生き物を撮影します。新しくオープンした樹冠トレイルなども含めてからすま半島をみんなで楽しみながら撮影しましょう!!



(7) くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9 名】

グループ代表アドレス: hashi-hakutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川千代美

【活動報告】

■ 11月3日(土) 13:00～ あけぼのパーク多賀 開館20周年記念式典への出席・記念講演会の聴講

場所: あけぼのパーク多賀 参加者: 9名

活動内容: あけぼのパーク多賀(滋賀県犬上郡多賀町四手)の開館20周年記念事業として、図書館、博物館、文化財センターに継続的に協力をしているいくつかの団体に対し、多賀町教育委員会から感謝状が贈呈されることになりました。その1団体として、古琵琶湖発掘調査隊が選ばれ、一部のメンバーとともに記念式典に出席し、感謝状と記念品をいただきました。

当日は『あけぼの20周年まつり』というイベントが行われており、多賀町民の多くの方が参加されていました。『多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト』の発掘調査の現場で一緒にいる、多賀町立博物館の方々や、専門班の先生方、発掘お助け隊の方々ともお会いすることができました。華やかな雰囲気の中、地元の皆様と協力しながら活動を進める意義などを改めて感じる機会となりました。

また14時30分より開催された、三枝春生主任研究員(兵庫県立人と自然の博物館)の記念講演会『あつまれ、未来の恐竜博士たち』～多賀のアケボノゾウから丹波の恐竜 タンバリュウまで～を聴講しました。地質や古代ゾウ、恐竜研究について最先端の情報を得ることができ、発掘調査の活動に活かしていければと考えています。



〔記念式典終了後に記念撮影をしました〕

■ びわ博フェスでのポスター掲示

11月17日(土)・18日(日)に開催されたびわ博フェスでは、古琵琶湖発掘調査隊の活動を紹介するポスターを掲示しました。

【活動予定】

■ 日時: 12月1日(土) 13:30～16:00 場所: 琵琶湖博物館 実習室1

足跡化石についての勉強会(講師: 滋賀県足跡化石研究会 岡村喜明 先生)・多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業



(9) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

■ 10月13日土曜日は、来館者の出足があまり思わしくなかったのですが、1回目はかなりの子ども達が集まってくれました。2回目を午後3時から始めようとしたら、なかなか子ども達が集まってくれず、数人から始めることになりました。はじまるとだんだん、人が集まり、通常の上演ができました。これから冬場は、帰りの時間等も考えて、上演する必要があるのかなという話し合いをしました。この日も、企画展示「化石林」を、紙芝居「びわこの旅」を利用して子ども達に紹介をしました。

びわ博フェスでは、毎回同じ内容ですが、なかなか「生きている琵琶湖」の歌を知っているという来館者の方はいらっしゃらないようでした。今回は、普段の紙芝居の上演の時よりも、少し年齢の高い子ども達も参加してくれていましたので、紙芝居のさわりの部分のやり取りが活発にできて、楽しい雰囲気になりました。子ども達とは、「びわこの旅」の紙芝居、「生きている琵琶湖」の合唱、ヨシで作った「ビービー笛」での「かえるのうた」の合奏と楽しい時間を過ごしました。

【活動予定】

- 1月27日(日) 13:00 実習室1集合 紙芝居上演
- 3月10日(日) 13:00 実習室1集合 はしかけ登録講座
紙芝居上演



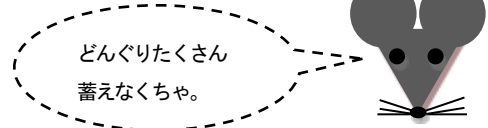
(10) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中村久美子、妹尾裕介

びわはくフェスが今年も終わりました。今年は、緑のくすりばこと合同開催で、匂いのプログラムを実施しました。植物って、色んな匂いを持っているんですね。大人も楽しめるプログラムになりました。すっかり秋も終わって冬になりそうな気分です。紅葉の葉っぱもそろそろ終わり、生きものたちも冬支度を始める頃ですね。



【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
びわはくフェス	11月18日(日)	精油の蒸留見学と蒸留水を使ったルームスプレー作り	蒸留器を使って、植物の中に含まれる成分を取り出す様子を見学して、その香りの閉じ込められた蒸留水でアロマ・スプレーを作りました。

～メンバーからのメッセージ～Vol. 46

アロマスプレー作りのワークショップは、大人の方の参加者が多いのかと思いましたが、意外に子供達からもやりたい! という声が聞こえたので、良かったです。また植物の匂いに興味を持っていただけると嬉しいです。

吉野

【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
ディスカバイベント	12月22日(土)	はたきをつくろう	補助
はしかけ	12月未定	障子の張り替え	年末に、おばあちゃんの台所の障子の張り替えをします。
はしかけ	1月未定	お手玉作り	毎年恒例、今年もお手玉づくりをします。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽に中村・妹尾まで声をかけてください。いつでもお待ちしております!

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう!



(11) 里山の会

【活動報告日の活動会員数 35 名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama @biwahaku.jp (登録会員数: 36 名) グループ担当職員: 山本綾美

【活動報告】

■ 10月7日(日) 里山体験教室 下見&琵琶博フェス準備 参加者: 12名

午前中に、秋の里山体験教室の下見をしました。小雨が降っていましたが、散策コースで、キノコや木の実をさがして歩きました。木の実、は、昨年より不作でしたが、いつもの場所に行くとなんとアケビの実やクリなどを確認できました。



参加者へ楽しく自然観察してもらうために、はしかげメンバーみんなでコースのなかの植物についてみんなで学びました。

午後は、琵琶湖博物館の生活実習工房に場所を移し、琵琶博フェスの準備をしました。森のかげらのお守りづくりをみんなで試作し、これなら参加者の人も喜んでくれるだろうと思いました。



■ 10月14日(日) 里山体験教室 本番 参加者: 39名

下見のときとはうって変わっていい天気! 里山のお話を少ししてから、散策スタート! 早速、不思議な形のキノコを発見。わってみたり、においをかいでみたり興味深々。赤い



実、青い実、黄色い実。虫のおうちが入った変な形の実などなどいろいろな秋を見つけることが出来ました。アケビやナツハゼなど見つけてその場で食べてみました。はしかげメンバーの宮本さんは、きのこにも詳しくこの日は、おいしいきのこもつけることが出来ました! 午後は、里山整備の目的や整備方法などのお話の後、みんなで整備をしました。今回は台風跡の整備と、森に光を入れるための枝払い、冬支度としての薪作りなど行いました。最後に、簡単なネイチャークラフトを作ったのしみでした。



今年度の里山教室では、毎回さと山整備をみんなでしています。活動するたびに心地よく、豊かな場所になるようにしていきたいです。

■ 11月18日(日) びわ博フェス 参加者: 18名 一般参加者 約50名

午前中10時から準備を始めました。生活実習工房の前庭に机を並べ、道具もそろえて準備万端。午後1時に受け付け開始だったのですが、1時前から参加希望の方々が並び始め、受付を開始した瞬間に定員オーバーになってしまいました。定員30名のところ、受付に並んでいた方に入って頂き、約50名のかたにワークショップに参加していただきました。

皆さんに気に入った木のかげらを選んでもらい、紙やすりで磨いてつくります。仕上げにビーズとひもをつけて出来上がり! ひもの長さはお好みで、ストラップにしたり、ネックレスにしたりしてくれました。

小さな森のかげらですが、身に着けて森に思いをはせながら楽しんでもらえたらと思います。



【活動予定】

■ 1月12日(土) 里山体験教室下見&芋煮会

■ 1月20日(日) 里山体験教室 本番



(12) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

ススキやヨシの穂の白さが目立つようになり、赤や黄色の紅葉も里まで下りて来ました。

「今年は、いつもより秋が早いね」と言ったら、「去年も言ってたよ」と友達に言われ、我ながら驚いてしまいました。

でも、でも…、アケボノソウは、いつもより10日も早く咲き終わり、結実しましたよぉー。

【活動報告】

■ 10月7日(日)「持ち寄ったもの(水草の復習も)をみよう」 参加者: 5名

この日も、各自が持ち寄った様々な植物を観察。

- ・縄文弥生の森で見つけた植物の探索(たぶん、ツルコウゾ!とバリバリノキ?)
- ・ヒメユズリハとユズリハの見分け方(透かしたときの葉状網の見え方)
- ・湖岸で採取した水草の復習
- ・ゴキヅル(画像→)の観察

わからない植物を調べること、それも葉っぱ数枚から調べるときはどうすればいいのか、どの図鑑や検索表を使えばいいのかなど、**独りではできないこともメンバー**

が集まれば何とかなる!を再度実感しました。「それは何?」から始まり、「この本にはこう書いてある」「以前見た〇〇とは、明らかに違う」→「たぶんこれ!?!」「またわかったら教えて!」となっていました。いつものパターンです。

また、今回は、偶然湖岸で見つけたゴキヅルにはまってしまい、花・実・つるをみんなで見続けました。後日、雄花と雌花があることを調べ直したメンバーの方から知らされ、別のはしかけの会でも実物を見ながら盛り上がり過ぎてしまいました……。そんなこともあり、定例会でなくても植物観察する際には、大人のディスカバ内(簡単にすぐれものの拡大画像が見られるので)個人的に集まるのもいいかなあ、とも思いました。

11月24日(土)は、お出かけ観察会「博物館の周りを見てみよう」(原稿締め切り後の開催のため、簡単に紹介)

はしかけ全体へメールで呼びかけていただきました。

講師: 布谷知夫さん。午前は博物館の敷地内で観察。午後はラボ内でくわしく調べ、観察。半日のみ参加も可としました。

【活動予定】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合や都合がつかない場合は、変更となることもあります。外部で行う観察会は、年に数回、はしかけの皆さんにも呼びかけを行っています。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。

■ 12月2日(日)「持ち寄ったものをみよう、被度・群度を調べてみよう」

場所: 琵琶湖博物館 実習室1または2 または大人のディスカバ内ラボ

時間: 13:30~16:00

■ 1月~3月 は 未定 (相談後、日にちを決めます)

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください(°^°)/

当日、直接、実習室へ来ていただいても結構です。





【活動報告】

箱館山平池 (ダイライケ: 高島市) へ、9月24日 (月祝) に、「たんさいぼうの小さな旅」に行ってきました。以下、吉野彰一さんがまとめて下さった記録をもとに、行程をたどってみます。

10時30分頃に調査開始。まず道路から直接下りられる場所①で調査を行いました。そこから池を一周して調査しようとしたのですが、急峻な斜面で獣道しかなく、苦勞して進んだものの、池に下りられる場所はありませんでした。しかし池の反対側に出るとそこには遊歩道があり、池へのアプローチも容易でした。遊歩道の近くの②と③で調査を行い、結局12時30分までに計3地点で調査をすることができました。しかし、獣道をたどったのは全くの無駄ということになりました。



池にはタンカイザリガニがたくさんいました。タンカイザリガニと言えばすぐ下流にある淡海湖が有名ですが、どうやら平池の方により多く分布するようです。

こうして約2時間の調査でへとへとになった私たちは、近くのビラテスト今津で昼食をとり、温泉で汗を流して帰途につきました。

採集したサンプルは12本です。すでにサンプル処理が完了し、水質分析も始めています。問題は、誰が珪藻を調べるのか、ということです。我こそは! という人は、上記代表アドレスま

でご一報ください。

日本珪藻学会第38回研究集会が、10月27日 (土)、28日 (日) に近畿大学医学部 (大阪狭山市) で行われ、影の会長を含む会員5名が参加しました。今回は、会員によるたんさいぼうの会名義での発表はありませんでしたが、根来健さんが琵琶湖博物館特別研究員として、琵琶湖のオビケイソウ *Fragilaria crotonensis* の群体のねじれの話をしました。また、シンポジウム「大阪層群・古琵琶湖層群・東海層群一珪藻から見えてくること」では、影の会長が会員の服部圭治さん・富小由紀さんと連名で、東海層群と古琵琶湖層群の珪藻化石の話をしました。

11月17日 (土)、18日 (日) の「びわ博フェスティバル」で、たんさいぼうの会は、琵琶湖の小さな生き物を観察する会とともに、マイクロアクアリウムを占拠しました。日常のマイクロアクアリウムの展示の他に、博物館前の生態観察水路の泥の上から集めた珪藻や、田上里町の池で採集してきた珪藻、ミカヅキモ、カタツムリトビケラなどを見せていました。また、有孔ボードにたくさんの微細藻類の顕微鏡写真を貼って展示しました。解説もたいへん好評で、しばしば人だかりができていました。

びわ博フェスでは「超珪藻マスター」も実施しました。8月の水処理生物基礎講座で、プランクトンの専門家を含む20名以上の受講者が25分間で誰も完答できなかった、あの曰く付きの超難関分類ゲームです。ところが、今回は何と8名もの合格者を出しました。多くの人たちは1時間近くかかっていたましたが、約30分でクリアした人たちも2人いました。どちらも小学生です。

多賀町四手の蒲生層 (前期更新統) から産出した化石珪藻の報告は、先日めでたく受理となりました。12月発行の *Diatom* 34 巻にはわずかに間に合いませんでしたが、来年の早い時点でオンライン出版される見込みです。光学顕微鏡と走査電子顕微鏡を併用して、151種もの珪藻を区別し、うち118種までを同定した、担当編集委員もその努力に驚いたという労作です。電子出版されたら詳細を報告します。藤前干潟 (名古屋市) の珪藻については、概ね初稿を書き上げましたが、量が膨大なこともあって、修正がなかなか進みません。他にも藤ヶ鳴湿原 (岡山市)、瀬田公園 (大津市)、愛知県の鉾質土壌湿地群などの珪藻の研究を進めています。

【活動予定】

たんさいぼうの会第58回総会を、2019年1月13日 (日) 14:00~16:00 に、大津公民館 (大津市島の関) で行います。その後は新年会です。いずれも、参加ご希望の方は上記代表アドレスまでご一報ください。





(14) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木隆仁

今年は多くのエビ類を採集し、同定会も2度にわたって開催したため、結果をまとめるのも大変だったようで山川代表がずいぶん苦勞されたようです。また、びわ博フェスという対外イベントの準備・本番もあり、いつもより頻繁に集まることになりました。

小さくて日頃なかなか人に気づいてもらえない田んぼのエビたち。せめてフェスティバルで多くの人たちに見てもらい、初夏の田んぼをのぞく楽しみに目覚めてほしいと願っています。

【活動報告】

■ 9月23日(日) 10:30~16:30 調査結果報告会とびわ博フェス準備 参加者: 6名

今年度調査のうち、瀬田・石山寺地区の結果について山川代表より報告がありました。

- ・昨年と比べてカブトエビが見られなかった田が目立つ。
- ・カブトエビのいる田でも生息数は少なく、そのせいか大きな個体が多かった。
- ・アメリカカブトエビよりもアジアカブトエビのほうが強いように思われる。
*石山寺三丁目では、5センチを超える巨大なアジアカブトエビも見つかった
- ・アジアとアメリカのせめぎあい地点は、千町三丁目の中央あたりと思われる。
びわ博フェスでは、11月17日にワークショップを行うことにしました。
- ・内容は、田んぼのエビ類(6種)の同定とペーパークラフト作り

■ 11月4日(日) 13:30~16:30 第2回調査結果報告会とびわ博フェス準備 参加者: 6名

今年度調査結果の全体について、山川代表よりまとめの資料が配布されました。

- ・全体の傾向としては、大きな変化は見られない。
- ・循環灌漑の影響
守山地区 タマカイエビ・ハウネンエビの拡がりは見られない。
竜王地区 ハウネンエビは増えていないがカイエビ類が生息域を拡大している。
東近江地区 カブトエビ類の生息域が拡大している理由は不明。
これらの結果については12月の「琵琶湖地域の水田生物研究会」で発表予定

***以前の資料を含め、会議で配布した資料はクラウド上に保存し、会議に欠席した場合でも、メンバーが後日自由に閲覧できるようにすることが決められました。このニューズレターが発行された段階で、すでに閲覧可能になっています。**

びわ博フェスの準備

- ・今年集めた試料の中から同定用の個体を選び出し、小シャーレに封入しました。

■ 11月17日(土) 13:00~15:30 びわ博フェス2018ワークショップ 参加者: 6名

実習室1で午前中から準備をし、13時より説明を開始しました。今年は、アルコール固定をした実物を見てもらい、その種名をあててもらいました。一組8個の小シャーレに6種のエビ試料(アジアカブトエビ、ハウネンエビ(オス)、カイエビ(メス)、トゲカイエビ(メスとオス別々に)、ヒメカイエビ、タマカイエビ(メス))と、偽物として白い小石を入れました。また、参考資料として、折りたたむと絵柄がそろうペーパーパズルもお渡ししました。種の同定もパズルも、親子が一緒になって取り組んでおられました。

当初の計画では、時間を区切って同定とペーパークラフト作りを行う予定でしたが、隣室の別イベントに入れなかった参加者やイベントを終えた参加者が三々五々にのぞきに來られたので、来場順に各テーブルで個別に取り組んでももらいました。中には、年配のご夫婦2人だけで熱心に説明を聞いておられる姿もありました。同定の正解者には田んぼのエビ類のペーパークラフトの原図を渡し、好きなエビを組み立ててもらいました。最終的に参加者は40名を超え、ますますの盛況となりました。

フェスティバルの終了後は、同定に利用した試料をもとの試料ビンに間違いなく戻すという手間のかかる作業をして、今年のびわ博フェスが終了しました。皆さんお疲れさまでした！



【活動予定】

会員の方は、今後送られる日程調整アンケートにお答え下さるようお願いいたします。

(石井千津)



(15) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

＜2020年の調査が迫ってきました！＞

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年も実施される予定です。2019年が予備調査、2020年が本調査です。

2018年12月に、調査全体の最初の会議が大阪で開かれます。そこで調査票などの内容が決定し、参加する各道県の体制が共有され、いよいよ調査が動き出します。継続して皆さんに情報を提供していくつもりですので、はしかけ活動へのご参加、それが無理ならば調査への個人でのご協力を、よろしくお願いいたします。

＜引き続きメンバー募集中！＞

次回の調査に向けて、そろそろ準備したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！

メーリングリストを、現在移行中です。メーリングリストに登録を希望される方は、上記アドレスまで連絡をください。こちらから改めて連絡をとらせていただきます。

＜2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書をご希望の方はお知らせください！＞

「タンポポ調査・西日本2015」の報告書および結果チラシをご希望の方は、上記アドレスあるいは芦谷まで直接お尋ねください。チラシを配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

【活動報告】

この2ヶ月は、特に活動はありませんでした。

【活動予定】

2019年3月に、「タンポポ調査・西日本2020」の事務局主催の研修会が開催予定です（大阪）。また滋賀県でも4月から勉強会や説明会を開催予定です。このニューズレターでもお知らせしますが、その都度情報を知りたい方は、ぜひメーリングリストへのご登録をご検討ください。問い合わせは上記アドレスまで。



秋晴れに恵まれた10月、11月のちこあそ活動でした。

◆ 10月17日(水)

秋は収穫の季節。みんなでキクイモの根をおこして、コロコロとかわいいキクイモを収穫しました。夏には3メートルほどもある茎をのばして、「大きいなあ」と見上げていました。秋になり、茎が枯れて、その根っこには美味しいイモができました。昼食時に、バンダナおじさんが茹でてくださり、パクパク。ゴボウのような土の香りのするキクイモでした。

お昼からは、新しくなったディスカバリールームへ。おばあちゃんの台所でままごとをしたり、魚を見たり、ザリガニに入ったりと、生活実験工房や実際の森、畑とはまた違った展示で楽しみました。(神戸大学との共同研究でも自然環境と展示環境の子どもの発言の違いを調べています)

◆ 11月17日(土)「ちこあそ拡大版」としてびわ博フェスに出展！

普段は事前申込みの幼児と保護者のペアが多いちこあそですが、土曜日そしてびわ博フェスということでたくさんの方がご参加くださりました。ループを持って、畑から森へ入っていくと、アカネズミが食べたオニグルミの食痕があったり、イチイガシのドングリや、トチの大きな葉っぱに、腐葉土の中にはカブトムシの幼虫も。みんなでいっぱい見つけて触れて、遊びました。また、火をおこして、サツマイモの焼き芋をほおぼり、オニグルミを焼いて食べました。

今回初めて、メンバーによる野点を行いました。子どもたちはお抹茶を飲めるのかと半信半疑でしたが、みんな正座をして、お抹茶を飲み干して、美味しいと話していました。お代わりをする子どもも。屋外の雰囲気子どもたちを茶道の世界に誘っていたのですね。樹冠トレイルからの通りがかりの人も一緒にオニグルミを食べてお抹茶をいただいて、ちこあそだけでなく、来館のみんなが生活実験工房を囲んで楽しんだ半日でした。

◆ 11月21日(水)

前回のちこあそに続いて、今回も収穫の秋。残してくださっていたキクイモ、サツマイモ、サトイモ、ラッカセイを掘りました。しかし！今年は猛暑の影響か、それとも手入れの影響か、実なりが悪く、バンダナおじさんも「あかんなあ」との声。それでも、小さな子どもたちの手には持ちきれないほど、たくさんの収穫がありました。お昼にはそれらのおみそ汁や、キクイモチップを食して、笑顔で「おいしいなあ」と。普段家ではおみそ汁を飲まない子どもが、お代わりをする姿も見られました。

今回は新しくオープンした樹冠トレイルへ出かけました。お母さんと手をつないで、階段を登ると、大きな琵琶湖が見えました。「おーい」や「ヤッホー」ととにかく声を出したくなる気持ち良さ。木の上を楽しんだら、トレイルから眼下に広がっていたホワイトビーチへ。穏やかな日差しの元、広いホワイトビーチで砂遊び。子どもたちは裸足で走って、砂を掘って遊びました。

ループで生き物を観察したり、樹冠トレイルやホワイトビーチ、収穫と、盛りだくさんのちこあそですが、出来るだけ子どものペースでゆるーくやっています。いろんな子どもの発見ややりたいことに応えられる楽しい博物館です。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。

<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
10月	10月17日(水) 10:00-14:00	いよいよ秋、森遊びの季節です ちこあそ10月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども9人、保護者7人、学生1名
11月	11月17日(土) 10:00-14:00	びわ博フェス ちこあそ拡大版	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子どもと保護者26人、通りがかりの参加者20人
11月	11月21日(水) 10:00-14:00	樹冠トレイルもオープンしました。森を眺めてみましょう ちこあそ11月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども9人、保護者8人、学生1名

【活動予定】

	実施日	タイトル	内容
12月	12月19日(水) 10:00-14:00	ちこあそ12月	※毎月おおよそ第3水曜日に行います。 ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。
1月	1月16日(水) 10:00-14:00	ちこあそ1月	※毎月おおよそ第3水曜日に行います。 ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

◆ 10月の様子



キクイモをウントコショ、ドッコイショで抜きます



元学芸員の小野さん親子も参加で、綿繰りを解説してもらいながら親子で体験しました。

◆ 11月びわ博フェス



焼き芋のために、お家の方々が火吹き竹を使って、フーフー



ちこあそメンバーによる野点で、お抹茶をいただきました。子どもたちも神妙な気持ちでいただいて、「おいしい！」と

◆ 11 月ちこあそ



樹冠トレイルから、「ヤッホー」



サツマイモを収穫しました



(17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚泰介

【活動報告】

■ 10月27日(土) 参加者: 7名

琵琶湖のプランクトンと博物館前にある水路の珪藻を観察しました。

■ 11月17日(土)、18日(日) 参加者: 8名

びわ博フェスでワークショップを行いました。今回も去年と同じようにマイクロバーで来場者とプランクトン等の話をしました。また、今年たんさいぼうの会が作成したゲーム「超珪藻マスター」も行いました。珪藻の写真を同じ種類ごとに分けるといったシンプルですが珪藻の形態の変化や同定する際のポイントについて知ることができ、大人も子供も楽しめるという素晴らしいゲームでした。当会からも4名が挑戦してみごと認定証を受け取ることができました。



ワークショップの様子



超珪藻マスター認定証受け取りの様子

【活動予定】

次回開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



【活動報告】

■ 10月13日(土)「ドキ土器! おしゃれもようを楽しもう!」 参加者: 27名

今回のわくたんでは、約1万5千年前の縄文時代に使われた縄文土器について学び、「縄文」を粘土に再現してアクセサリーを作りました。はじめに、博士の妹尾学芸員からお話をいただきました。そしてB展示室に移動し、縄文時代の人々の暮らしや土器について詳しく学びました。その後、実習室にて「麻紐を編んだもの」や「ヨシ」、「竹」などで粘土に縄文模様をつけ、オーブントースターで焼いてアクセサリーを作りました。

参加者はオリジナルの縄文を粘土につけ、当時の人々の暮らしを感じながら世界でたった1つのアクセサリーを作っていました。また、完成後は博士に縄文を見てもらい、より詳しい解説を聞くことができました。縄文について詳しく知る機会になったと思います。



■ 11月10日(土)「秋の色探しをしよう!」 参加者: 16名

今回のわくたんは、琵琶湖博物館の周囲を散策し、色づいた樹木の葉を集めて色の変化を楽しみました。博士には大槻学芸員を招き、紅葉のしくみや葉の形などの特徴についてお話を聞きました。また、散策では、樹木それぞれの名前や特徴、葉の紅葉について詳しく解説をしてもらいました。散策後は、実習室にて集めた葉の種類や色ごとにシートに貼り付け、色の変化を楽しみました。

当日は天候もよく、爽やかな秋の風と暖かな日差しを感じながら散策することができました。参加者が少人数であったため、子どもたちを中心にたくさんの質問が博士にできました。季節を感じながら、紅葉について深く学ぶ良い機会になったのではないのでしょうか。

びわたん (こばやん)



【活動予定】

■ 12月15日(土)

「綿にふれてみよう!」

■ 1月12日(土)

「お魚モビールを作ろう!」

【活動報告】

■ 9月23日(日) 参加者: 3名

チョウザメの骨のクリーニングを行いました。
はしかけ登録講座において活動紹介を行いました。

■ 10月14日(日) 参加者: 5名

スズメの解剖とフナの解剖を行いました。
スズメは組み立て標本の制作を目指して、小学生会員さんが奮闘されていました。
小型の動物の組み立て標本を制作する時は完全にバラバラな骨にはせず、わずかに関節が離れないように制作し、乾燥させて組み立て標本を作る事があります。

■ 10月21日(日) 参加者: 3名

ウシガエル、イタチのクリーニング、カルガモのクリーニングを行いました。

■ 11月3日(土) 参加者名: 3名

イタチのクリーニングとハクビシンの除肉を行いました。

■ 11月17日(土) 参加者名: 3名

午前中はびわ博フェス 2018 において、大人のディスカバリールームのオープンラボを使用して、バイカルアザラシの骨の洗浄作業の公開実演を行いました。合わせて来館者の方との交流活動も行いました。

午後からはバイカルアザラシの骨の洗浄とフナの解剖を行いました。

博物館のリニューアルによって新たに誕生したオープンラボを使用させていただいての、公開実作にチャレンジした今回のびわ博フェスですが、公開で作業をしているとご質問をいただく事がたくさんあり、来館者の方の方から声をかけていただけたのが印象的でした。

いままでは、こちらからお声掛けをさせていただいて交流をする事が多かったのですが、作業をしていると自然に作業についての疑問を投げかけていただけるので、すんなりと交流を始めることが出来、楽しい時間がすごせました。

【活動予定】

12月、1月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



▲びわ博フェスでの様子です。

右上のディスプレイに作業の手元が映し出されています。



【活動報告】

■ 9月27日(木) 場所: 琵琶湖博物館 生活実験工房 参加者: 11名

・へちま化粧水作り

4月からメンバーに種を配布して、自宅で育ててもらったへちまから、へちま水を採取し、化粧水作りを行いました。へちまのつるを土から60cmぐらいのところでカットし、先を瓶などに入れ、つるから出てくる液をためます。へちま水は、中秋の名月の日に採取するとよいそうです。前日に雨が降ると沢山へちま水が採れるのですが、雨が降らなかった時は、水をたっぷり与えておきます。

採れたへちま水を持ち寄って、煮沸を行い、それからコーヒーフィルターでろ過して化粧水の容器に入れ、グリセリンを加えて化粧水は出来上がりです。使ってみると、へちま水は柔らかく感じます。また、肌につけてみるとしっとりしました。ただ、防腐剤が入っていないので、早めに使う必要があるのが欠点ではないかと話し合いました。

・まゆ玉化粧水作り

へちま水が採れなかった場合のことも考えて、まゆ玉で化粧水を作る準備もしていました。材料を購入していたので、まゆ玉化粧水も作りました。市販のまゆ玉をハサミでカットし、精製水で煮だします。それをコーヒーフィルターで濾して、容器に入れ、グリセリンを加えて出来上がりです。まゆ玉から抽出される「セリシン」というアミノ酸が肌を整える有効成分として知られています。

・小豆マッサージ

化粧水作りと合わせて、マッサージなど、美容に使える植物がないか探していた時に、小豆を使ったマッサージがあることを知り、試してみました。小豆を粉砕して粉にしますが、まずフライパンなどで炒ってからミルサーで粉砕します。粉になった米ぬかを合わせて、綿100%の布に包み、紐でしっかり縛ります。それを水に浸しながら、マッサージを行いますと、つるつるすべすべの肌になりました。

・梅干しマッサージ

日本酒に1週間ほど梅干しを漬けた液で、皮膚が厚くなっている部分をマッサージするとよいと本で読み、試してみました。古い角質をこすり取る効果があるようで、ひじをマッサージしたメンバーからは、「ポロポロ角質がとれるよ」といった声が聞かれました。身近な食べ物で簡単にピーリングが出来るのだと驚きました。

へちま水



化粧水と小豆マッサージ



■ 10月19日(金) 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 10名

・薬草バスソルト作り

どくだみやよもぎなど、緑のくすり箱で研究してきた薬草を使った、バスソルト作りを行いました。

バスソルトは2種類作りました。一つは市販の岩塩を使ったバスソルトです。有名な「死海の塩」を使いました。死海の塩にどくだみやよもぎを加えただけの簡単なものです。

もう一つは、お風呂に入れると発泡するバスソルト、「バスボム」と呼ばれるもの。重曹、クエン酸、自然塩をタッパなどの容器にはかり、そこに薬草を加えます。容器の蓋をしっかりと、容器をふりながら材料をしっかりと混ぜます。それから、ラップで包み、丸く成形します。お風呂に入れると発泡して、炭酸ガスのお風呂になり、体がとても温まります。

(参加者からの感想)

- ★楽しいバスソルト作りでした。アレンジしたら、いろいろなハーブの香りでお風呂が楽しくなりそうです。
- ★肩こり、冷えによりバスボム体験。いつもよりお湯をたし、長湯しました。とても気持ちよかったです。
- ★バスボム、バスソルトといえば、おしゃれな雑貨屋さんにあるイメージでしたが、なじみのある材料で作れることに驚きました。

発泡バスソルト作り



どくだみバスソルト



・びわ博フェスポスター作り

びわ博フェスのポスター作りを行いました。どくだみの花を色画用紙で作った緑のくすり箱らしいポスターが出来上がりました。

びわ博ポスター



■ 11月18日(金) 場所: 琵琶湖博物館 生活実験工房 参加者: 8名

・ヒバの蒸留体験とアロマスプレー作り (びわ博フェス2018)

今年のびわ博フェスでは、琵琶湖博物館にあるアランビック蒸留器を使って、ヒバの蒸留を行いました。

びわ博フェスに来られたお客様には、蒸留の様子を見学してもらい、希望された20名の方に、ヒバの蒸留水でアロマスプレー作りを行うワークショップを開催しました。

ワークショップでは、生活実験工房から参加者を連れて、蒸留水の原料となるヒバの木がある場所まで歩きました。参加者は親子連れが多かったのですが、子供たちにはヒバの葉を少しちぎってもらい、香りを嗅いでもらいました。どんな匂いがする？と聞いてみると、「レモンの匂いがする」と言っていた子もいましたし、中には「生姜の匂いがする」と言っていた子もいて、生姜にはヒバと同じ香気成分があるのかなと、とても興味深かったです。

生活実験工房に戻ってから、アロマスプレー作りを行いました。柑橘系の香りがする蒸留水に合わせて、スイート・オレンジの精油(エッセンシャルオイル)を使いました。精油は水には溶けにくいという性質を持っているので、最初に少量のエタノールをに溶かし、そこにヒバの蒸留水を加えてアロマスプレーにすることを参加者のみなさんに説明しました。日本

アロマ環境協会から取り寄せた香育テキスト「かおりのはなし」を見てもらいながら、アロマスプレーを使う際の注意点について、参加者にもしっかり確認してもらいました。

ワークショップ終了後、メンバーでもアロマスプレーを作ってみました。スイート・オレンジのほかに、グレープフルーツやいよかんといった柑橘系の精油、ラヴィンサラの精油を使ってスプレーを作りました。オレンジとは、また変わった香りのスプレーが出来て、楽しむことが出来ました。

アランビック蒸留器



ヒバの葉の蒸留



アロマスプレー作り



【活動予定】

活動の日程は未定です。また後日連絡します。

12月 どんぐりコーヒー、スコーン作り

2月 ハーブ石鹸作り



(21) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21 名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋克郎

【活動報告】

■ 10月8日(月) 10時～15時 びわ博フェスの準備と練習 場所: 生活実験工房周辺 参加者: 10名

11月18日のびわ博フェスの準備をしました。

土の中から虫を探そう!の練習とポスター作りなどを行いました。

■ 11月18日(日) 9時～17時 びわ博フェス 場所: 琵琶湖博物館 参加者: 11名

びわ博フェスにて、午前はワークショップ「土の中から虫を探そう!」と、午後はオープンラボにて「土の中から虫を探そう!」で見つけた虫の観察を実演しました。



ワークショップの様子



ワークショップの様子



実演の様子



ポスター

【活動予定】

今後、1か月に1回程度の野外調査、2か月に1回程度の室内勉強会を予定しております。

野外調査は、滋賀県の分布調査を予定、夏季には夜間の灯火採集も予定しています。

ご興味をお持ちの方は、グループ代表アドレスまでご連絡ください。(文責: 梶田)



【活動報告】

■ 9 月 29 日 (土) 13:30~16:00 樹冠トレイルのオープンに合わせての準備作業 場所: 生活実験工房

参加者: (会員) 5 名 (博物館職員) 林

内容: 今後の対応として以下の 1~4 を確認した。1. 台風 24 号で根返りした木で可能なものは業者に 10 月の早い時期に起こしてもらおう。2. 樹冠トレイル案内パネル (A3 版、8 枚) は 10 月第一週に業者に原稿を渡し 10 月 26 日までに設置してもらおう。3. 注意喚起版 (頭上注意、足元注意、禁煙など) は既製品を購入し森人で設置する。4. オープン当日の行事予定の確認

①AM オープニングセレモニーに森人も出席する。来賓向け樹冠トレイルの案内 (10 分程度): 林さんが説明し森人も同行する。

②PM 一般来館者向けガイド (40 分程度) は 13 時~、14 時~、15 時~の 3 回、各 10 名程度募集する。森人で樹冠トレイルと屋外展示の森を案内する。

■ 10 月 13 日 (土) 13:30~16:40 樹冠トレイルのオープンに合わせての準備作業 場所: 生活実験工房

参加者: (会員) 5 名 (博物館職員) 林

内容: 1. ガイドツアー配布資料として樹冠トレイル案内パネルの縮小版 (A5) を作成し森人または業者で印刷、製本する。2. 樹木説明板は既存の 8 枚のうち状態の悪い 1 枚 (クスノキ) の更新を実施した。(現場への取り付けは未実施) 3. 森の案内板を更新した。(現場への取り付けは未実施) 4. 樹名板の破損したものや現状に合わないものを撤去した。5. 林床の歩行通路の明示のためポリエチレンロープの仮設置と木杭を打った。

■ 10 月 27 日 (土) 13:30~16:30 樹冠トレイルのオープンに合わせての準備作業 場所: 生活実験工房

参加者: (会員) 8 名 (博物館職員) 林

内容: 注意喚起板取り付けと林床の歩行通路のロープはりには林さんが実施済。成安造形大学のオブジェ取り付け完了、根返り樹木の処理 (業者) 完了。樹冠トレイル案内パネル取り付け (業者) は本日実施。という状況であったので森人は主に下記の内容で実施した。1. 根返り樹木の土盛りを実施した。2. 樹木説明板 (1 枚: クスノキ) と森の案内板の現場への取り付けを実施した。3. ガイドツアーの予行練習を実施した。時間が 30 分しかないので樹冠トレイルのみ案内する。基本的には案内パネルの場所で説明する。

■ 11 月 3 日 (土) 13:30~16:00 樹冠トレイルのオープン行事に参加 場所: 樹冠トレイル入り口

参加者: (会員) 8 名 (博物館職員) 林

内容: 9:40~オープンセレモニーに参加しテープカットも行った。10:45~11:30 成安造形大学学生等によるオブジェの解説ツアーに参加し作者の思い入れやこだわりを聞くことができた。今後のガイドでもできるだけ伝えていきたい。

午後から樹冠トレイルツアー (一回目 13:00~ 二回目 13:30~ 三回目 15:30~) を実施した。各回とも参加者 10~15 名の 2 グループに樹冠トレイル設備、アートオブジェ、動植物などについて 30 分程度案内した。天候に恵まれ琵琶湖デッキからの素晴らしい眺望とともにトレイルのすぐそばでドングリ、タブノキの大きな芽やこの時期では珍しいシイノキの開花が見られるなど樹冠トレイルの魅力が感じられた。



■ 11月17日(土) 13:30~15:00 **びわ博フェスに参加** 場所: 屋外展示 参加者: (会員) 4名 (博物館職員) 林、草加
 内容: 森人ポスターの改定と樹冠トレイルと屋外の森のガイドツアーを実施した。11:50に総合受付前に集合し12:00~13:00 来館者にガイドツアー実施の広報と受付、13:00~14:00 参加者28名を2グループに分け樹冠トレイルと屋外展示を散策しながら約1時間をかけ動植物などの説明を行った。



カナメモチ開花 (通常は5~6月)

【活動予定】

◎12月8日(土) 13:30~16:00 内容: 動物観察、屋外展示ガイド冊子改定など 場所: 生活実験工房

◎12月22日(土) 13:30~16:00 内容: 動物観察、屋外展示ガイド冊子改定など 場所: 生活実験工房

- ★森が好きな人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか
 ★参加を希望される方は 森人 (もりひと) hashi-morihito@biwahaku.jp に連絡ください。



(23) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻達郎

琵琶湖梁山泊のロゴができました。梁山泊の旗印にふさわしく「替天行道」をあしらっています。

10月以降、グループとしての活動はありませんでしたが、各自研究を進めています。部ぐるみで会員になっている米原高校地学部は、姉川の珪藻化石群集を用いた古環境復元の研究で、滋賀県学生科学賞県展の最優秀賞をいただき、日本学生科学賞に出展することになりました。また、2019年7月27日~8月1日に行われる、全国総合文化祭への出場資格を得ました。(大塚泰介)

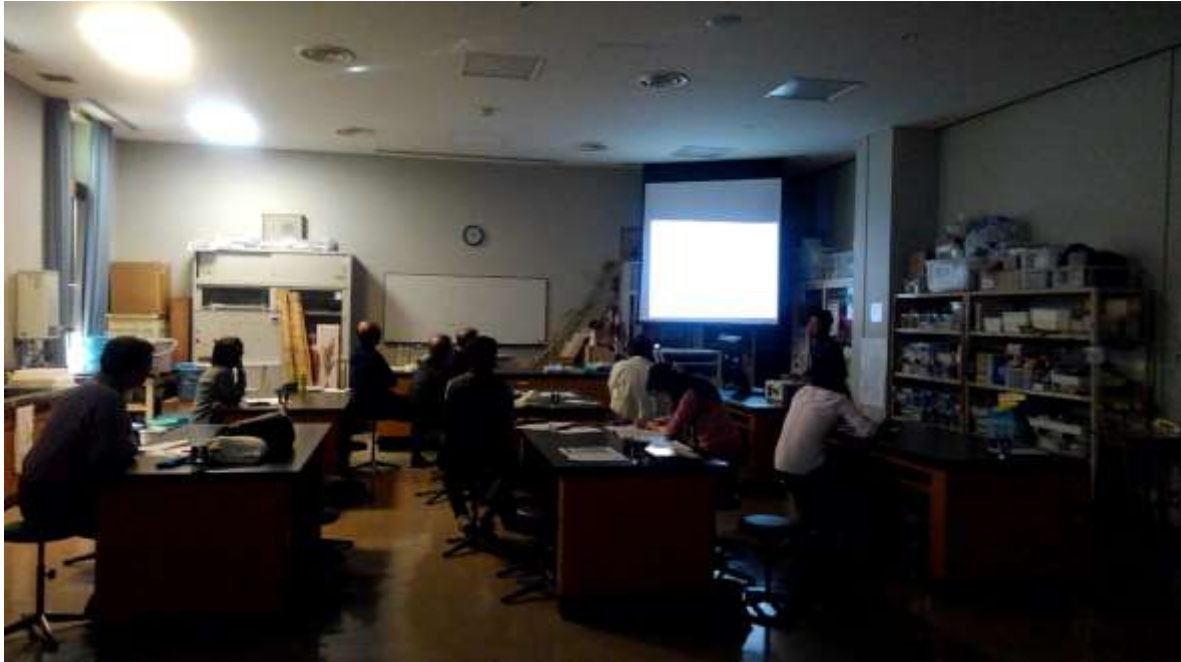
【活動報告】

■ 10月20日(土) 13:30~16:30 学習会

場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 9名 (はしかけ6名 学芸員1名 協力研究者1名 見学者1名)

2014年に発表した総説「琵琶湖環流の研究史」(2013年2月2日の新琵琶湖学セミナーで扱った内容)を題材に湖水の流れを物理学的に考察する要領について考えました。

また、びわ博フェスに展示するポスターの内容、グループのロゴについて議論しました。



■ 11月17日(土) 18日(日) びわ博フェスポスターに参加

【活動予定】

■ 12月2日(日) おとなのディスカバリーにて コリオリ効果に関する実験

既存の科学館的な実験から湖流の物理(特にコリオリ効果=地球自転効果)に関係しそうなものを選んで実際に試み、今後の活動に使えるものを探します。

3. 生活実験工房からのお知らせ

生活実験工房の田んぼでは稲刈りが済み、今年の農作業イベントについては一段落しました。12 月からは恒例の工房内でのイベントが続きます。皆様のご参加をお待ちしております。

担当職員：下松 孝秀

【活動予定】

開催時間 10:00～12:00 場所：全日程とも生活実験工房

12 月 2 日（日） 収穫祭

12 月 23 日（日） しめ縄づくり

2 月 10 日（日） わら細工

※一般参加者の受付は、9:30 からです。

4. その他の事項

（1）メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にもなつて、メールアドレスとホームページの URL が変更になりました。新しいメールアドレスは「***@biwahaku.jp」、ホームページは「<https://www.biwahaku.jp/>」です。なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

（2）はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス（各グループの報告欄に掲載）にご連絡ください。

（3）名札（会員証）の写真について

名札（会員証）の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りまふ。

（4）はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

（5）はしかけ活動中に事故が起これら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先（社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923）へ、速やかに連絡してください（各人で連絡）。

なお、手続きには、グループ担当者（学芸員）の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局（博物館事務学芸室）にも置いています。